
小平にこここ保育園

とうきょう
すくわくプログラム

令和7年度

文化

こどもの日、七夕、夏祭り、正月遊び
わらべうた、ひなまつり



テーマ：文化

小平にここ保育園（小平市）

テーマを設定する

園行事や園生活で行われている、昔から大切にされてきた日本の伝統文化に親しみ、遊びや表現を通してその面白さを感じたり、新たな視点で気付きや発見を味わう。

活動① ～子どもの日の集い～ 幼児クラス

子どもの日の集いを通して、園庭に飾られる鯉のぼりの意味や知ったり、年齢毎の活動を通して日本の伝統文化に触れ、楽しんで行事に参加する。

環境をデザインする

- ・準備したもの こいのぼり 新聞紙の兜 玉 玉入れ用かご 綱
こどもの日に因んで参加する子どもの気分が上がるよう新聞紙の兜を用意した。

探究活動を実践する

・活動内容

園庭に集まり、子どもの日の由来を聞き、「鯉のぼり」の歌を歌った。

三歳児 玉入れ 四歳児 綱引き 五歳児 相撲

・子どもたちの様子

保育者が用意した新聞紙兜を被ると友だちと顔を見合わせ「かっこいいね」「おそろいだね」と笑い合う姿も見られ、行事に対しての期待感やなりきる楽しさを感じていた。

鯉のぼりの歌が流れると体を揺らしたり手を振ったりしながら元気いっぱいになり、歌の中の鯉のように空に向かって腕を伸ばして表現する姿があった。

風に泳ぐ鯉のぼりを見ながら歌うことで、季節を感じ、日本の行事を楽しむ気持ちが自然に育まれていた。

各年齢で行なった活動で、結果に喜んだり、悔しがったりながら、気持ちを共有する姿が見られた。年齢の違うクラス同士でも互いのクラスを認め合い、日本の伝統的な遊びの面白さを体全体で味わっていた。

・活動スケジュール

活動スケジュール	時間/回	人数/回
① 子どもの日の集い	30分程度	88人
② 七夕	30分程度	105人
③ 夏祭り	60分程度	66人
④ わらべうた	15分程度	12人 9人
⑤ 正月遊び	60分程度	22人
⑥ ひなまつり	30分程度	105人
⑦ 振り返り	20分程度	66人



振り返りを踏まえた気付き

・園の先生から

新聞紙兜を被ることで「強くなった気がする」「かっこいい」と自信を持つ姿が見られ、行事の象徴的なアイテムが子どもの心を動かす力を改めて感じた。

また、保育者が一緒に兜を被り、歌いながら楽しむ姿を見せることで、子どもたちもより安心して行事に参加し、笑顔で表現する姿が多く見られた。

こうした経験をきっかけに、「どうして勝てたのかな」「もっと強くなるにはどうしたらいいかな」など、子どもたち自身の気づきや疑問を大切にしながら、遊びを発展させていくことで、日本の伝統文化を新たな視点で捉え、主体的な関わりへとつなげていきたい。

テーマ：文化

小平にこここ保育園（小平市）

活動② ～七夕～ 幼児クラス

物語を通じて、七夕の由来を知り親しもうとする。

環境をデザインする

・準備する物 折り紙・画用紙

全クラスでの活動なので、きりん組ととら組の部屋を開放して物語を見られるようにしたり、乳児クラスはマットを敷いて座って見やすい環境を作る。

七夕製作は子どもが作りたい物を自分で選んで、異年齢児交流をして作れるような空間を用意する。

探究活動を実践する

・活動内容

- ・七夕の物語の劇を見る。
- ・異年齢児と交流を持って、願い事を込めて製作に取り組む。

・子どもたちの様子

・七夕の劇は、保育者が着物を身に付けて物語を子ども達に伝えた。初めて見る劇に子ども達も「すごい」「楽しい」と興味を持って劇を見ていた。物語を通じて、どんな事も一生懸命に取り組む気持ちが大切である事を学んでいた。夕方、外が暗くなると空を見ながら「彦星と織姫、会えるかな？」と友達と一緒に会話をする様子が見られた。

・製作は子ども達が作りたい物を自分で選んで取り組んだので意欲的に参加していた。また、作り方に困っている友達がいると上のクラスの子どもが「ここはこうやって作るよ」と教えてあげる様子が見られた。



振り返りを踏まえた気付き

・園の先生から

・例年とは違い、七夕の伝統や由来を子どもに関心を持って見てもらえるように劇を取り入れていった。子ども達も新鮮な気持ちと興味を持って七夕の物語を見ていた。劇だったので子ども達も、物語を動きや言葉を真似してみたり七夕の絵本を友達と一緒に見たりとより関心を深める様子が見られたのが良かった。

・製作は幼児3クラスで行った。自分で作りたい物を選び、異年齢児と会話をしたり分からない事がある時には教えてもらったりと普段の活動ではなかなか関わりを持つ機会が少ないので、今回の七夕を通じて異年齢児交流をみんなで持つことが出来たことが良かった。

テーマ：文化

小平にこここ保育園（小平市）

活動③ ～夏祭り～ 幼児クラス

日本の伝統的な祭りの文化に親しみ、実際に行い、遊びや表現を楽しむ

環境をデザインする

・準備する物 机 椅子 法被 神輿 スクリーン プロジェクター 手作り紙幣
各クラス出し物（子どもの製作物） 3歳児 からあげ フライドポテト
4歳児 的あて 製作体験 やきそば
5歳児 クレープ たこ焼き かき氷
プロジェクターを活用し、市内で行われている祭りの由来や様子を視覚的に伝えられるようにした。
各クラスで出し物を作り、買い手と売り手の両方の役を経験できるお店屋さんごっこを取り入れ、遊びの中で祭りの雰囲気を味わえるようにしていった。

探究活動を実践する

- ・活動内容
- ・祭りの歴史、どんな物なのか、小平市内の祭りについてのPowerPointの鑑賞
- ・おまつりごっこ
- ・子どもたちの様子
- ・祭りの歴史や意味、小平市内で行われている祭りについてPowerPointを用いて伝えたことで、「神様に感謝するもの」「神輿には神様が眠っている」など、祭りをこれまでとは違う視点で捉え、興味や関心を深める姿が見られた。
- ・年長児からは「運動会を頑張れるようにおみこしを作りたい」という声上がり、話し合いをしながらお神輿作りへと活動が発展していった。
- ・おまつりごっこ当日は、各クラスでお店屋さんごっこを楽しみ、買い手と売り手のやりとりを経験しながら、友だちとの関わりを深めていた。また、一人ひとりが願いや感謝の気持ちを持って参加する様子も見られた。



振り返りを踏まえた気付き

- ・園の先生から
- 祭りの由来や意味を事前に伝えることで、子どもたちは行事を単なる「遊び」としてではなく、「感謝や願いを込める文化」として捉え、興味や関心を深めていく姿が見られた。実際の祭りの映像を用いたことで理解が深まり、子ども自身の言葉や思いから活動が発展していく様子が見られた。
- また、おまつりごっこでは、買い手・売り手の役割を経験する中で、人との関わりややりとりを楽しみながら、祭りの持つ意味や雰囲気を自然と感じ取っていた。事前の導入や環境設定が、子どもの主体的な気付きや学びにつながることを改めて実感した。

テーマ：文化

小平にここ保育園（小平市）

活動④ ～わらべうた～ 0歳児クラス

保育者とのふれあい遊びを通じてわらべうたに親しむ

環境をデザインする

- ・準備する物 わらべうたの本、わらべうたのCD、スカーフ
わらべうたに興味を持てるよう、CDを用意し流したり歌ったりする。
わらべうたに合わせて動きやすいよう、十分なスペースを取り、危険物を置かないようにした。
子どもの興味が続くよう、スカーフの色や素材を変えるなど、選べる楽しさを用意した。

探究活動を実践する

・活動内容

- ・室内遊びの中で、保育者とふれあい遊びを行う。
- ・ふれあい遊びにわらべうたを取り入れ、歌に合わせて体を動かした。
- ・スカーフを使ってわらべうたを歌う。
- ・保育者や友だちと「いないいないばあ」などの簡単なわらべうた遊びを行う。

・子どもたちの様子

- ・ふれあい遊びの中で保育者がわらべうたを歌うと、興味を示してじっと見つめたり、体を揺らしたりする姿が見られた。
- ・スカーフを使って「うえからしたから」などのわらべうたを歌うと、保育者の動きを真似しながら楽しそうにスカーフを揺らしていた。
- ・「いないいないばあ」など、日頃から親しんでいるわらべうたでは、保育者と一緒に行ったり、友だちとやり取りを楽しむ姿が見られた。



振り返りを踏まえた気付き

・園の先生から

園で初めてわらべうたのCDを流すと、子どもたちは興味を示し、体を揺らしたり、真似して歌おうとする姿が見られた。
また、保育者がふれあい遊びやスカーフを使いながらわらべうたを歌うことで、さらに関心が高まり、「もう一回」と繰り返しを求める姿もあった。
伝統文化であるわらべうたに触れ、楽しむ姿が多く見られたことに加え、保育者自身も新しいわらべうたを知る良い機会となった。
今後も日々の保育の中で、わらべうたを取り入れながら子どもたちと一緒に楽しんでいきたい。

テーマ：文化

小平にこここ保育園（小平市）

活動④ ～わらべうた～ 1歳児クラス

保育者とのふれあい遊びを通じてわらべうたに親しむ。

環境をデザインする

- ・準備する物 絵本・CD・凧（手作りたこ、シール）・福笑い（おかめ、ひょっとこ、顔のパーツ）
- 安全に留意し、マットの上や広い公園など遊びに合わせて環境を設定し、他児との接触や転倒などがないように配慮した。

探究活動を実践する

・活動内容

- ・『たこたこあがれ』のわらべうたをきっかけに「たこ」に興味を持ち、好きな色の凧足を選んでシール貼りを楽しみながら、個性豊かな凧を製作した。その後、保育園の隣の公園で凧揚げを行い、のびのびと体を動かして楽しんだ。
 - ・『だるまさん』のわらべうたを通して様々な表情や顔のパーツの名称に触れ、お正月の伝承遊びとして福笑い製作を行った。
 - ・子どもたちの様子
 - ・『なべなべ』や『かごめかごめ』などのわらべうたを、友だちと一緒に体を使いながら楽しんだ。保育者が凧揚げの見本を見せると、「やりたい」「やってみたい」と意欲的な声上がり、子どもたちは動きを真似しながら凧を持って元気に走り回る姿が見られた。
- 福笑いでは、「お正月の遊びだよ」と伝えながら見本を示すと、「福笑い？」と興味を持ち、「これ目？」「口あった！」と顔のパーツを言葉にしながらかしんで貼り進んでいた。完成すると「見て！」と友だち同士で見せ合い、喜びを共有する姿も見られた。お正月ならではの遊びを通して、伝統的な文化に親しみながら、友だちと一緒に楽しむ姿や行事への関心が高まっている様子がうかがえた。



振り返りを踏まえた気付き

・園の先生から

0歳児クラスから「ふれあい遊び」の中で様々なわらべうたに親しみ、絵本の読み聞かせやCDに合わせて楽しんできた経験が、日本の伝承遊びへとつながっている。子どもたちは「〇〇ちゃんとやる」といった姿も見られ、友だちと一緒に楽しむ遊びへと発展していた。わらべうたと伝承遊びを組み合わせることで、より親しみを持って活動に参加することができていた。

また、音やリズムに自然と反応し、自ら体を動かしたり、パーツを貼ったり、保育者や友だちの動きを真似する姿が見られた。繰り返しの遊びは子どもたちに安心感を与え、次の展開を期待しながら主体的に関わる姿につながっていた。

シンプルな遊びだからこそ、一人ひとりが自分で気付き、試したり関わったりする姿が多く見られ、「すくわくプログラム」が大切にしている“探究心”や“関わりの広がり”を実感できる時間となった。

テーマ：文化

小平にここ保育園（小平市）

活動⑤ ～正月遊び～ 3歳児、5歳児

日本の伝統文化を知り、昔ながらの遊びを楽しむ

環境をデザインする

・準備したもの

こま・ひも・大判かるた
コマ回しをする際には、机などを移動させ広い場所で安全に行えるよう環境を整えた。
大判かるたは机上で取りやすいよう六角形の机を使用し、どこからでも手が届くようにした。

探究活動を実践する

・活動内容

お正月遊びについて知り、お正月遊びを楽しむ

・子どもたちの様子

紐のコマに触れる機会が少なかったため、初めは保育者が回す様子を見て興味を示す姿が見られた。紐の巻き方が分からず保育者に尋ねたり、「巻いてほしい」と頼る姿もあったが、繰り返し取り組む中で徐々に自分で巻けるようになっていった。できるようになると、友達に巻き方を教える姿も見られ、関わりの広がりにもつながっていた。回すこと自体は難しさがあつたものの、「次はできるかも」と何度も挑戦する意欲的な様子が印象的であった。また、「家ではやったことがない」といった声もあり、日本の伝統的な遊びに触れる良い機会となっていた。

大判かるたでは、3歳児も楽しめるよう環境を工夫した。机を六角形に配置することで移動せずに自分の場所から探せるようにし、枚数も調整して少人数で行うことで、文字を見て探すことを楽しむ姿が見られた。札が大きいことで取りやすく、意欲的に参加する様子が見られた。



振り返りを踏まえた気付き

・園の先生から

お正月遊びの由来について、子どもたちに分かりやすく伝えることで、興味や関心を持って活動に参加する姿が見られた。コマの回し方を知らない子が多かったため、保育者が見本を示しながら行えるよう事前に準備したことで、安心して取り組むことができていた。

また、机の種類や大きさを工夫することで遊びやすい環境となり、最後まで楽しむ姿につながった。環境設定や子どもの目線に立って考えることの大切さを改めて感じた。さらに、コマ回しは職員も経験が少なかったため、子どもたちと一緒に練習することで楽しさを共有し、意欲を高めることができた。コマを回せる職員のもとへ自ら聞きに行く姿も見られ、特に年長児にとっては主体的に関わる良い経験となっていた。

保護者にはお正月遊びの様子を写真掲示で伝えることで、家庭ではなかなか経験できない遊びを園で行っていることや、子どもたちの姿を共有することができた。今後も園ならではの経験を大切に、家庭への発信も行っていきたい。

テーマ：文化

小平にここ保育園（小平市）

活動⑥ ～おひなまつり～ 2歳児

今回園としてのテーマである「文化」、日本の伝統文化であるひなまつりは、毎年訪れるイベントであり、子どもたちの身近にある行事である為。

環境をデザインする

・準備する物 ひな人形、つるし飾り、大型えほん「大きな園行事絵本シリーズ ひなまつり・こどものひ」絵本「おひなさまのいえ」、絵本「012さいのきせつとぎょうじ100」CD「ひなまつり・こいのぼり 春の歌ベスト」
ひな人形は繊細で大切なものである為、触れないよう、床にカラーテープを貼り、見る場所（立ち位置）を視覚的に分かりやすくした。

探究活動を実践する

- ・活動内容
- ・ひな人形鑑賞
- ・子どもたちの様子

初めて見る絵本に出会うと、子どもたちはすぐに興味を示し、ページをめくるたびにお話の世界に引き込まれていた。大型絵本や七段飾りを使ってひな人形の名称や行事食を紹介すると、普段とは違う特別な雰囲気を感じられたようで、真剣な表情で見聞きしていた。

特に行事食への関心が高く、ひしもちの三色が持つ意味を伝えると印象に残ったようで、吊るし飾りのひしもちを見つけた際には「これ三色だよ」と思い出すように口にしていた姿が見られた。

また、ひなまつりの音楽が流れると、子どもたちは自然と七段飾りに近づき、身を乗り出してじっくりとひな人形を眺めていた。衣装の色や飾りの細かい部分にも気づき、「きれい」「おひなさまいた」と嬉しそうに話す姿もあり、伝統行事への興味が広がっている様子が感じられた。



振り返りを踏まえた気づき

・園の先生から

2月頃からクラスでは「けっこん」という言葉が子どもたちの間でよく聞かれるようになり、お内裏様とお雛様が結婚していると知ると、さらに興味を深めていた。絵本の読み聞かせやひな人形、吊るし飾りを鑑賞する際には、じっと見つめて集中して楽しむ姿が見られた。園庭に隣接する公園の梅の木にも日頃から関心を寄せており、つぼみの頃から触れたり観察したりしていた。花が咲くと「ピンク!」「白!」と色の違いを保育者に知らせ、2本の木で咲く色が異なることにも気づいていた。吊るし飾りの中に梅があることを伝えると、園庭で見つめた梅と結びついたようで、より親しみを持って見ていた。日常の遊びや生活の中で生まれた興味が、ひなまつりの活動とも自然につながり、子どもたちが日本の伝統文化に関心を向けるきっかけとなっていた。

～一年間の振り返り～

きりん組、とら組、らいおん組のとうきょうすくわくプログラムの一年間の活動内容を映像を見ながら振り返っていった。

- ・準備したもの プロジェクター スクリーン パソコン
- ・活動内容 園で行ってきたとうきょうすくわくプログラムの一年間の内容を映像で振り返っていった。
- ・子どもたちの様子

すくわくの文化の一年間の振り返りとして、プロジェクターを使用し、これまでの写真を見ながら活動を行った。写真が映し出されると、「これやったね！」「楽しかったよね」などと声を上げながら、当時のことを思い出して話す姿が見られた。

また、友達との関わりや行事での出来事を振り返る中で、共感し合ったり笑い合ったりする姿も見られ、一年間の経験を楽しく思い出している様子であった。自分の姿を見つけて嬉しそうにする様子や、成長を感じる場面もあり、活動を通して満足感や達成感を味わっている姿がうかがえた



振り返りを踏まえた気付き

園の先生から

一年間すくわくの文化の活動に取り組む中で、子どもたちは様々な経験を重ね、興味や関心を広げながら自分なりに表現したり、友達と共有したりする姿が見られるようになった。繰り返し取り組むことで、活動に主体的に関わろうとする姿も増え、積み重ねによる成長を感じることができた。

また、行事の由来についても活動の中で継続して伝えていくことで、年度末まで覚えている姿が見られ、理解の深まりや経験の定着につながっていることを実感した。

一方で、活動への参加の仕方には個人差があり、関わりが少ない子への働きかけや、活動内容の広がりによって課題が見られた。今後も子ども一人ひとりの姿に応じた関わりや環境の工夫を行い、より主体的に取り組める活動へとつなげていきたい。